庁議記録

日　時　令和７年９月３日（水）
16:00～16:20
場　所　テレビ会議室

【加納副知事】

それでは、ただいまから庁議を開催いたします。本日の議題は、報告事項が４件でございます。

はじめに、報告事項の 1 件目といたしまして「カムチャツカ半島付近の地震に伴う対応の振り返り」につきまして、総務部から説明をお願いいたします。

【危機管理監】

資料１をご覧ください。

この「振り返り」は、７月 30 日に発生したカムチャツカ半島付近の地震によります津波警報等に対する道や市町村の対応について、８月４日から５日の２日間、市町村をはじめ、振興局、本庁を対象にアンケートや個別聞き取りを行いまして、課題の洗い出しや対応の方向性を検討し、資料 1 のとおり取りまとめまして、昨日開催されました総務委員会で報告をしたところでございます。

各部・振興局の皆様には、期限が短い中で、調査にご協力をいただきまして、ありがとうございました。

課題・問題点でございますが、資料の 1 ページに記載のとおり、避難指示の発令や道防災情報システム（Ｌアラート）の運用、避難対策や避難所等といった項目ごとに、市町村の対応などで課題が明らかとなったほか、道におきましても、災害対策連絡本部の運営の中で、避難者数等の取りまとめや本部員会議の遅延といった課題がございました。

これら課題への対応の方向性でございますが、資料の 2 ページに記載のとおり、まず、速やかに対応するものとして、８月中に、防災情報システムの入力マニュアルの修正や、道と市町村によるＬアラート訓練などの取組を行ったところでございます。

今後におきましても、市町村や防災関係機関と連携いたしまして、様々な事項の検討を進め、防災計画の修正や防災教育、訓練に適切に反映するとともに、この度の対応の中で、各県にも共通してみられた課題等につきましては、国への要望も検討してまいる考えであります。

また、子どもや要配慮者等の避難対策や、水門の自動化などでは、所管部局が中心となって取り組んでいただくとともに、各市町村の取組の促進では、各振興局の役割が重要となりますので、関係各部・振興局の皆様には、引き続きご協力をお願いいたします。

【加納副知事】

次に、報告事項の 2 件目としまして、「ヒグマ対策」につきまして、環境生活部から説明をお

願いいたします。

【環境生活部次長】

資料２をご覧ください。

この７月と８月に、福島町と羅臼岳におきまして、ヒグマによる痛ましい事故が発生したほか、現在、道内７箇所にヒグマ注意報を発出しております。さらに、道警察に寄せられた７月の通報件数も、過去 5 年間で最多でありました一昨年を上回るなど、依然として人里周辺での出没が相次いでいる状況にあります。

また、これから秋を迎え、野山に入る機会が増える一方で、ヒグマも活発に活動するなど、より一層の注意が必要な状況になっております。

こうした状況を踏まえ、例年９月１日から 10 月 31 日までとしている「秋のヒグマ注意特別期間」を先月 22 日からに前倒しをし、市町村等とともに、道民の皆様に広く注意を呼びかけているところです。

道では、人里周辺へのヒグマの出没に際しては、地元市町村と協議しながら、状況に応じて注意報を発出しているほか、現地への職員派遣による技術的助言をはじめ、専門人材の派遣、電気柵の貸出の支援などを行っており、振興局の皆様には、引き続き地域の状況を把握していただきながら、情報共有や市町村への支援にご協力をお願いいたします。

また、現在、市町村のご意見も伺いながら、ヒグマ注意報や警報の発出に関しまして、より効果的な運用となりますよう必要な見直しを進めているところであり、とりまとめ次第、速やかに市町村に周知したいと考えております。

今月 1 日からは、改正法の施行に伴い、市町村長の判断で市街地での緊急銃猟が可能になったところであり、円滑な実施に向けて、道内各地で市町村や道警察、猟友会等の関係機関とともに訓練を行ってきており、成果や課題については、市町村と共有していく考えでございます。

さらに、本日、北海道市長会や町村会と合同で国に対し、必要な予算の確保など対策の充実強化に向けた緊急要望を行っており、国とも連携しながら取り組んでいくこととしております。

これまでも、関係部や振興局の皆様とは連絡会議を通じて、危機感を共有しながら注意喚起などを行っていただいていておりますが、引き続き、皆様に情報等を共有させていただきますので、人身被害防止の観点から、各部局、振興局の皆様からも関係団体や様々な媒体を通じまして、積極的な注意喚起と、必要な対策を講じていただきますようお願いいたします。

【加納副知事】

次に、報告事項の 3 件目として、「日本遺産炭鉄港」につきまして、空知総合振興局から、続けて、報告事項の 4 件目として、「ニセコトレイル利用促進の取組」につきまして、後志総合振興局から、それぞれ説明をお願いいたします。

【空知総合振興局長】

資料３をご覧ください。

空知の石炭を基軸に室蘭の鉄鋼、小樽の港湾、これらをつなぐ鉄道によって繰り広げられた北海道近代化のストーリーであります「炭鉄港」につきましては、令和元年の日本遺産認定以降、空知・石狩・後志・胆振にまたがる官民の多様な主体によって構成されます「炭鉄港推進協議会」において、魅力発信・普及啓発など、様々な取組を展開してきたところでございます。

主な取組としましては、セブン-イレブン・ジャパンと連携した炭鉱労働者などに親しまれた独自の食文化「炭鉄港めし」の普及促進や、小中学生を対象とした出前講座による次世代への普及啓発、誘客促進に向けた炭鉄港カードキャンペーンの開催、その他、資料には掲載しておりませんが、受入体制の整備として共通サイン看板の設置などを行ってきました。

認定から 6 年が経過した本年度は、「日本遺産総括評価・継続審査」の対象となり、これまでの取組内容と今後３年間の計画に関しまして、文化庁の審査を受けておりましたが、7 月 31 日にその結果が公表されまして、日本遺産としての認定が継続されるとともに、他地域のモデルとなる優れた取組としまして、重点支援地域に選定されたところでございます。

重点支援地域となったことで、文化庁補助金の補助率かさ上げが行われるほか、文化庁主催イベント等にて積極的に取り上げられることとなり、炭鉄港への注目度が今後ますます高まると期待しているところでございます。

10 月の３連休には、炭鉄港地域で集中的に様々な誘客イベントを実施します「炭鉄港 3-DAYS」を初開催する予定でございます。

引き続き、地域間の一層の連携強化により炭鉄港の魅力を生かした地域活性化を推進したいと考えておりますので、関係振興局はもとより、皆様方にも是非ご支援ご協力をお願いしたいと考えております。

【後志総合振興局長】

資料４をご覧ください。

後志管内の課題といたしましては、観光客が集中しているニセコのみならず、ニセコエリア外への誘客と、冬季だけではなく夏季の需要の創出などが挙げられます。

このため、ニセコ積丹小樽国定公園内を、ニセコから日本海まで横断するロングトレイルコース「ニセコトレイル」を設定し、夏季の目玉コンテンツとなるよう、資料中段にある対応方向を基本とした取組を進めております。

今年度の主な取組については、ルート上に設置した 32 の看板を利用したポイントラリーを開催しておりまして、応募者には、抽選で地域の特産品などをプレゼントすることとしております。

また、民間と連携した取組として、民間イベントを利用した写真展を開催したほか、地元の山岳会所属のガイドによる体験トレッキングを開催いたします。

さらに、こうした取組を持続可能なものにしていくために、関係機関の皆様と連携して登山道を維持管理することとしており、振興局内でも多くの職員が、看板の設置や登山道の整備に参加を

しております。

なお、こうした取組と併せて、山ではヒグマとの遭遇なども心配されるため、ガイドマップなどへ注意事項を掲載しているほか、ホームページでヒグマに遭わないためのルールの周知、徹底を呼びかけるなど利用者の方々にニセコトレイルを安全に楽しんでもらえるよう努めております。

今後も魅力あふれる地域資源を道内外に積極的に発信し、観光振興に繋げるなど、地域の課題解決や地域活性化に向けた取組を進めてまいります。

【加納副知事】

議題は以上でございますが、何かご発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、最後に知事からお願いいたします。

【知事】

まず、「カムチャツカ半島付近の地震に伴う対応の振り返り」についてです。

1か月が経過というところでありますが、今回の災害対応においては、避難指示の遅れ、避難情報の把握に時間を要したこと、自動車避難による渋滞の発生、避難所での暑さ対策の脆弱さなど、様々な課題が明らかになったところであります。市町村のご協力をいただきながら、速やかに振り返りによる課題・問題点等の洗い出しを行って、今後の対応の方向性について取りまとめていただいたところであります。

先ほど話もありましたけれども、災害がまたいつ発生するとも限らないという状況の中で、迅速にこの取りまとめを行っていただいたことに感謝を申し上げたいと思います。

できるものから、早急に対応するとの考えの下で、先月中に、市町村職員向けの防災情報システム入力マニュアルの修正、市町村との合同によるＬアラート訓練などを行っていただきました。

今後とも、関係部局・振興局が市町村と連携をして、各般の取組を着実に進め、各県共通の課題等については、国への要望も検討するなど、防災・減災対策の強化を引き続き図るよう指示をいたします。

次に、「ヒグマ対策」についてであります。

道内では、今年度に入ってから既に 3 件の人身事故が発生しているほか、市街地周辺での目撃情報も多く寄せられるなど、ヒグマの出没傾向がこれまでとは異なってきている状況です。

このため、道では、ヒグマ注意報等の発出の見直しについて検討を進めるとともに、例年 9 月から開始している「秋のヒグマ注意特別期間」を初めて前倒しし、ホームページや SNS 等を通じて、道民の皆様に注意を呼びかけているところであります。

関係部局・振興局においても、様々な機会を通じて、今こういった背景にありますので、道民の皆様への注意喚起をしていただくようお願いします。

9月1日からは、改正鳥獣保護管理法が施行され、新たに緊急銃猟が可能となりました。道としても、関係機関とともに訓練を行っているところでありますが、こうした緊急銃猟への対応を含め、必要な予算の確保など、先ほど話もありましたが、本日、市長会・町村会と連携して、小林環境副

大臣に対して要望などを行っている状況であります。

引き続き、道民の皆様の安全・安心が確保されるように、各部局・振興局においては、関係する道警察、市町村などと緊密に連携を図りながら、ヒグマ対策に万全を期すようお願い申し上げます。

次に、「日本遺産炭鉄港」についてです。

このたび、官民を挙げた取組が評価され、日本遺産の認定の継続だけでなく、他の地域のモデルとなる優れた取組として重点支援地域に選定されたということであります。

私も夕張で市長をしていましたが、構成文化財の一つであり、この石炭博物館模擬坑道は、日本遺産の認定直前に火災があり、長らく閉鎖という状況にあった訳ですけれども、今年の 4 月に再開ということであります。記念式典に参加させていただいて、復旧した模擬坑道も視察させていただきました。

この炭鉄港の取組ですけれども、空知の旧産炭地と、小樽、室蘭など振興局をまたいだ連携によって、地域間の周遊促進など交流人口、関係人口の創出が期待できる取組であります。

引き続き、地域の付加価値向上、活性化に向けて、関係する振興局はもちろんとして、本庁関係部局も皆で協力をしながら、先ほど言った好機でありますので、炭鉄港の魅力を生かした官民の連携を進めていただきたいと思います。

最後に、「ニセコトレイル利用促進の取組」についてです。

観光客が集中するニセコ地域からエリア外への誘客、夏の需要創出といった地域課題の解決に向け、官民が連携した取組であります。訪れた方々に新たな地域の魅力を提供するものとなっています。

今後とも、道内外から訪れた方々に、安全・安心に地域の魅力を感じていただけるように、これは振興局の職員の皆が地域の皆様と一緒になって登山道を維持・管理していただいているということで、地域の方々からも振興局への感謝ですとか、協力いただいていることについてお話も伺っておりますけれども、是非、振興局の皆さんもそういった作業などをされる中で、安全対策に留意いただきながら地域の皆様とともに、連携モデルとして、ニセコエリアの魅力あふれる地域資源を積極的に発信してほしいと思います。

今申し上げた、日本遺産炭鉄港、ニセコトレイルについても、この庁議で皆さんと共有させていただいて、道庁全体で効果的に発信していくことが重要と思いますので、それぞれの振興局の話だということではなく、受け止めていただきたいと思います。皆で盛り上げていければとも思いますので、よろしくお願いします。私からは以上です。

【加納副知事】

それでは、皆様には知事の指示事項を踏まえまして対応いただきますようお願いいたします。以上で庁議を終了いたします。お疲れ様でした。